

サービス管理責任者の視点から

障害者自立支援法の開始に伴い、しょうがい者の状態やニーズに応じた支援が効率的に行えるよう、各事業所にサービス管理責任者が配置されました。サービス管理責任者は「利用者中心」の考えに基づき、個別支援計画書の作成やサービス提供のプロセス全体の管理などに取り組みます。そういった意味でもサービス提供全体を把握していくことと、その責任所在を明確にする意味でも、サービス管理責任者は大きな責任を持つ立場でもあります。

ライン工房には現在約60名の方が通所されています。通所だけでなく、グループホーム・ケアホームや福祉ホームと生活の場もあります。私達の個別支援計画の中では、まずご本人自身が何に向けて取り組みたいのかを大事にしています。これは作業に限らず、生活全般において考えていただきます。「クッキーの型伸ばしが上手になりたい」、「パン作りをしっかりと覚えたい」、「ヘルパーさんと上手く関わっていく」、「家でのお手伝いをやっていきたい」、「皆（メンバー）と仲良くしていきたい」と作業のことや、生活、人間関係と様々な目標を上げられます。目の前の日々の目標でもあったり、時間を掛けて達成していくこと（将来に向けた目標）もあります。半年に一度、振り返りと今後の方向性を確認しますが、自分なりに達成できたのか、そうでなかったのか、なぜできなかったのかを一緒に考えます。自ら考えた目標、それに伴う取り組み、そしてその結果への振り返りと次に向けた目標、この一連の過程がその方の力を引き伸ばす為のポイントだと思います。

そういった個別支援の策定や評価を行っていくには、利用者の日々の状況を把握することや、信頼関係を築くことも必要です。利用者の数が増えると、

なかなかすべての方の状況を把握する事も困難ですが、私自身できるだけ朝の挨拶を皆さんに声を掛けよう心掛けています。声が沈んでいたり、表情がいつもと違ったりなど、変化に気付くことも大切です。「どうかしましたか?」という一言が、悩みの解決に結びつくことも沢山あります。

また利用者の支援は決して自分一人で達成できるものではありません。特に困難なケースについては地域や関係機関との連携やケース会議等も必要になってきます。そして一番身近に関わる支援者（スタッフ）に対する指導や助言、利用者や支援者との関係の把握、対人援助の仕事で抱えがちなストレスなど、スタッフのコーディネートも大切な部分になってきます。

サービス管理責任者は目で見たこと、耳で聴いたこと、心で感じたこと、いろんな情報を受止め、自分の経験や知識・技術、そして利用者を取り巻く人・物・環境など必要とされるものを活かし、利用者の望む生活が達成できるようなサービスを提供しなければいけません。また夢や目標があっても、人はどこかで悩んだり躓いたりすると思います。悩んでいてもなかなか打ち明けることができない、自分の気持ちを誰かに聞いてほしい、あの人ならきっと話を聴いてくれる、そういった時に気付いたり、頼りにされるサービス管理責任者でありたいと思います。大変な仕事ではありますが、利用者の笑顔や「良かった」という声が聞かれた時に、その苦勞も報われるものです。利用者が主体となる支援を大切にし、しょうがいを持つ方々が「自分らしい生活」を送れるよう、私自身も日々の学びを大切にしながら努力したいと思っています。 上野 昌治

..... 私たちも応援します 街の風

社会福祉法人リデルライトホーム

〒860-0862 熊本市東区5丁目23番1号
TEL 096-343-0489 FAX 096-343-0476
URL <http://www.ridell-wright.com/>

